

市内外の移動を支える JR

市内に26駅があり、函館線、千歳線、札沼線の3線を運行するJR。札幌と各都市を結ぶとともに、市内の移動手段としても定着しています。



【J R DATA】 ●利用者数／1日約19万人（平成21年度）
●運行本数／1日896本（平成22年度、特急などを含む）

意義

多様なダイヤで
速く、正確に

JRの駅間の平均距離は約2kmで、地下鉄の約2倍。快速列車などダイヤも多様で、長い距離を速やかに移動できます。市民だけでなく、各都市から札幌に来るビジネス・観光客にも欠かせない交通機関です。

課題

誰にでも
より優しい鉄道に

市内の乗客数は増加しており、機能のさらなる充実を進めています。市では、札幌・白石駅などのバリアフリー化や、札沼線の電化による所要時間の短縮など、サービスの向上に、JRと共に取り組んでいます。



ICカード乗車券「Kitaca」

改札機にタッチするだけで通過でき、電子マネー機能も付いています。平成25年度には地下鉄やバスなどでも使用できるようになる見込みです。

意義

地上で乗る気軽さと
分かりやすさ

地上で乗降する路面電車は、行き先が分かりやすく、階段による上下移動が少ないため、観光客や高齢者でも気軽に利用できます。また、デザイン性に優れた車両の導入などで、新たな魅力の創出が期待できます。

課題

全ての人にとって
使いやすい市電に

路面電車は、市民の生活の足として重要な役割を担っていますが、近年、乗客数は減少傾向にあります。車両はバリアフリー化が進んでおらず、超高齢社会を見据えた低床車両の導入を行うなど、誰もがさらに利用しやすくなることが求められています。



活用に向けた市民議論

昨年12月開催の「路面電車の活用を考える市民会議」では、札幌のまちづくりに路面電車をどのように活用すべきかについて、市民による白熱した議論が行われました。

広がる可能性 路面電車

昭和2年に市電として営業を開始した路面電車。将来のまちづくりへの活用が期待できる交通機関として、市民議論を交えた検討が進んでいます。



【路面電車 DATA】 ●利用者数／1日約2万人（平成22年度）
●運行本数／1日311本（平成22年度）